高等学校の新科目「公共」における市民力育成

- 1 校種・教科・科目（分野） 高等学校・公民科・公共
- 2 単元名 自由・権利と責任・義務
- 3 学習指導要領上の位置付け A（3）公共的な空間における基本的原理
- 4 カリキュラムマップとの関連性 市民の権利と責任

5 単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
◎自由・権利と責任・義務が表裏一体の関係にあることを具体的事例とともに理解する。 ◎与えられた題材をしつかりと読み解く。	◎題材の「自由にともなう責任とは」というテーマに対し、倫理的な側面から自己および他者との在り方について考察する。 ◎題材のテーマに対し、自分の考えを的確にまとめ、表現できる。	◎現代社会で問題となっている「忘れられる権利」について、どのように捉えればよいか考える。 ◎他者の考えにも耳を傾け、自分の考えをさらに深めようという姿勢が見える。

6 単元の特色（教材観）

使用教科書（実教 704）には 54 の小単元がそれぞれ見開き 2 ページという形で構成されており、2 単位配当の本校においては 1 単元を 1 時間（50 分）で終わらせることが基本となる。ただし、「公共」の教科書は旧来の「現代社会」に比べ、知識・技能の面ではほぼ変わらないが、思考・判断・表現の面では思考実験などを含め、多くのテーマ（35 テーマ）が設定されているため、このような単元は授業時間を増やして対応する。本単元（該当教科書の 37 ページ）も「自由にともなう責任とは」と題して、A 君がクラスメイト B さんの隠していた天才子役という過去の経歴や名声を知って、良かれと思い学級新聞でクラスに広めてしまうエピソードを紹介している。そのうえで、「あなたはこの事例をどのように調整すべきだと考えますか。表現の自由の保障やプライバシーの権利の意義を確認したうえで、自分の意見をまとめてみよう」と結んでいる。この題材は、別単元の「新しい人権」にも関連する今日的なテーマ、生徒達にしても身近なテーマであると考え、本単元を 2 時間で消化する計画を立てた。

7 単元計画

授業時数	指導項目	生徒の活動
1 時限目	<p>◎自由・権利と責任・義務の関係性について説明する。</p> <p>◎三大義務や新しい権利について復習し、それぞれの関係性について着目させる。</p> <p>◎教科書掲載の「自由にとまなう責任とは」というテーマの扱い方について説明し、作文用紙を配付する。</p>	<p>◎日常生活の具体的事例からそれぞれの関係性を考える。</p> <p>◎三大義務や新しい権利について、義務を果たすことが権利の保障につながること、権利の衝突や公共の福祉との関連性などを理解する。</p> <p>◎週末課題として、配付された作文用紙に 400 字以内で自分の考えをまとめる。</p>
2 時限目 (本時)	<p>◎回収した課題の匿名性を保持して、無作為に再配付。本時のワークシート 2 枚も配付し、記入方法を説明する。</p> <p>◎再配付した他者の課題を一定時間ごとに 5 人分を回し読みして、コメントや評価をワークシート【A】に記入させる。</p> <p>◎読み終えた感想と読後の変化について、ワークシート【B】に記入させる。</p> <p>◎「忘れられる権利」について、現実の問題として新聞記事を読ませ、説明を加えて理解させる。</p>	<p>◎本時の進め方について理解する。</p> <p>◎他者の課題を回し読みして、コメントや評価（4 段階）をワークシート【A】に記入する。</p> <p>◎読み終えた感想と読後の自らの変化について、ワークシート【B】に記入する。</p> <p>◎「忘れられる権利」を今日の倫理的課題として理解し、自分なりの捉え方を考える。</p>

8 カリキュラム・マネジメント

本単元は、同じ公民科の「政治・経済」A（1）現代日本の政治・経済における「権利と義務との関係」の足掛かりとして位置付けられる。また、情報科の「情報 I」（1）「情報社会の問題解決」などを通じて専門的な学びを得られる。

9 本時の授業展開

前項 7 で紹介した本時に該当する授業の詳細を示したい。

- ① 授業前に前時の課題として提出させた作文用紙をコピーし、氏名の部分を切り取ったうえで、無作為に整理番号を書いておく〈資料 1 参照〉。
- ② 授業に際し、ワークシート【A】〈資料 2 参照〉・【B】〈資料 3 参照〉の

2枚と他者の作文用紙を1枚配付する。そのうえで、5分を目安に他者の作文を読んでコメントと評価（4段階）をシート【A】に記入するとともにシート【B】にも記録しておくこと、それが終わったら一斉に座席の規則性をもって次の人に作文用紙とシート【A】を渡していくこと、その作業を4回くり返すことを伝える（万一、自分で書いた作文用紙が渡された場合は席の離れた人の用紙と交換する）。【5分】

③ ②で伝えた作業を4回くり返す。【20分】

④ シート【B】に4人の作文を読み終えた感想を記入させたうえで、評価の高かった作文（評価Aの個数）を挙手させて調べ、その作文を読み上げる。作文用紙とシートA・Bは回収する。【10分】

⑤ 「忘れられる権利」について扱った新聞記事（*）を配り、今回の作文テーマ「自由にとまなう責任とは」と関連付けて説明する。その後、私から問題提起をしたり、生徒達が自由に発言したりする時間を設けた。【15分】

私からは、「事件・事故関連の報道において、当事者が自らSNSで発信している情報は仕方ないにしても、当事者以外から集めた過去の卒業アルバムや記念文集などの情報（当事者の掲載物）をみだりに公開することは如何なものか」という問題提起を行った。生徒達からは問題提起に対する共感や、「友人と撮影した写真であれ、偶然写り込んでしまった写真であれ、無許可に掲載されたり使用されたりすることは嫌だ」との意見や、「いったん公開されてしまった個人情報とは後から削除しても無意味だ」などの意見が出た。どちらにしても、知る権利や表現の自由とプライバシーの権利とは衝突するケースが多いため、情報の扱い方には十分な配慮が必要という形で授業を終えた。

* この新聞記事<2022（令和4）年6月25日 北國新聞朝刊>は、最高裁がツイッターで閲覧できる逮捕歴の削除を命じたもので、『「忘れられる権利」議論に一石』と報じられている。なお、この新聞記事とは別に、授業実施日の直前に報じられた「女子相撲日本一決定戦に『性被害を訴えた〇〇さん出場』』という記事<2023（令和5）年1月3日 北國新聞朝刊>をスライドで映し、「性被害を訴えた」という表現は必要だろうか（この表現がなければ掲載価値はなくなってしまうのだろう）というコメントを添えた。

10 生徒の学習成果とその評価

生徒の作文は概ねのところ、「A君は学級新聞で紹介する前にBさんの許可を得るべきだった。許可が得られなければ、表現の自由よりもプライバシーの権利が優先されるべきだ」という文脈だった。個人的にも妥当な判断であると思うし、おそらくこの題材は二者択一の結論よりも論点整理とその上での思考を求めているのだ

ろうと感じた。授業の中では優秀作品（資料1）を紹介したが、僅か4人の評価に過ぎず、私の意図するところは結果よりも他者の意見にふれて判断するという過程にあった。それでも優秀作品は、目先の事象から視野を広げて意見を述べたことがA評価3人という高評価につながったのだと思う。

資料2として示したシートは、優秀作品についてのコメントと評価が記されたものとなっている。やはり、別の例をあげて説明したところが高評価につながったとわかる。限られた時間とはいえ、他者の作文を読んでコメント・評価を添えるという作業は生徒達に新鮮だったようで、評価はAの乱発を防ぐためか思いのほか厳しかったが、コメントはきちんと書けていたように思う。中には誤字などの添削を作文用紙やシートに付してあるものもあった。結果的に、4人分という人数も生徒達の集中力からすれば適当だったようである。後日改めて、このシートと作文を該当生徒に返却することで、生徒は他者からのコメントや評価を通して自分の作文を見直すことができた。

資料3として示したシートは、作文を読み終わった後に書かせたものである。代表的なものを例示したが、他者の作文を読むことで「なるほどなと思いました」、「～だと分かりました」という効果があったことがわかる。最後に記されている「権利や自由の範囲を定めるのではなく、グレーゾーンの部分を思いやりというものでうめられたら、今回のような事は起きなかったのかなと思いました」という表現は秀逸であると評価した。

資料4は、授業後の感想を課題（宿題）として書かせたものである。上段の作文はよくまとめられていると思うものだが、下段の作文は特徴的なものとして紹介した。生徒達は概して、授業の流れや方向性、私の授業でいえば紹介した新聞記事で描かれる問題意識などを肯定的に捉えがちだが、下段の作文は新聞記事が報じる流れや方向性に対して批判的な主張を強く述べている。他の生徒達の作文と比較しても、かなり特異な主張であった。もちろん文意は明確に伝わってくるし、多様な価値観や考え方を尊重するという立場からも個人的に高く評価したが、このような文章をこの後どのように扱えばよいのかということは課題として残った。

11 「18歳市民力」育成に向けての提案

成年年齢の18歳引き下げがスタートした2022(令和4)年4月から、小・中学校に倣って高校の教育現場にも観点別評価が導入された。高校における観点とは、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つである。

同じ2022(令和4)年4月から高校の学習指導要領も改訂・施行されたが、公民科においては新科目「公共」が「現代社会」に変わって配当された。「公共」は必修履修科目であり、公民科の基礎科目として、1年に配当されている学校が多いと思

う。前項6の教材観でも述べたが、新科目「公共」の教科書は「思考・判断・表現」の観点につながる記述が格段と多くなった。これは、今回作成された「資質・能力マップ」の記述にも通じていると思う。

18歳成年にともない、「契約」についてきちんと教えることが高校の公民科や家庭科に求められるようになった。「18歳になったら、自分で携帯電話の契約やクレジットカードの作成ができる」などは、よく言われるところである。これを「思考・判断・表現」の観点に当てはめれば、「自分で契約内容を読み解き、自分で考え、自分で判断したうえで、契約の可否を伝える」ということになるだろう。

これからの公民科の授業に求められるのは、生徒達に身の周りの公共空間や広く社会で起こっていることを認識させ、様々な価値観にふれながら自分なりの見方や考え方を深めさせていくことだと考える。私はNIE（教育に新聞を）の観点から、今回を含めて授業に新聞記事を活用している。広く社会で起こっていることを認識させたり、様々な価値観にふれさせたりすることには、マスメディアの役割が欠かせない。報告の中でもふれたように、マスメディアから発信される情報の内容や取り扱いについて、生徒だけでなく教員も正しく見極めていくこと（メディア・リテラシー）が求められる。

今回の実践報告は、コロナ禍で勤務校においてはグループ学習が認められていない状況、またタブレットや電子黒板のような機器が備わっていない状況の中で実施した、手法的には手間のかかる稚拙な方法であったと認識している。私自身が、より効率的に主体的・対話的で深い学びを実現するための精進を重ねていきたい。資料3で「権利や自由が衝突するグレーゾーンを思いやりでうめられたら」という生徒の記述を紹介したが、私なりに補足すれば、対話を通じた合意形成が身に付くような授業実践をしていくことが「18歳市民力」育成に向けての提案ということになる。今回の授業実践は、まだその入口を示したに過ぎないと反省している。

最後になったが、この実践報告を研究部会で行った際に、他の先生からご教示いただいた宮下紘先生のプライバシーや個人情報に関する研究が、個人的に大変参考になったことを添えておきたい。授業で紹介した新聞記事はEUの動向を取り上げたうえで「今回の判決は世界的潮流に沿った判断」と報じているが、宮下先生はEUと異なるアメリカの見方や考え方も示されているため、自分の知見を広げ、深めることができた。加えてこのことから、授業で扱う情報の集め方や取り上げ方が大切であることを再認識できた。

* 授業の趣旨にも合致するが、この授業が実践報告としてWeb掲載されることは作文やシートの扱いも含め、生徒達には説明済みである。

中村裕行（遊学館高等学校）

23

私は、教科書と読み及君が学級新聞でボ
 ンのことと知~~り~~学級新聞で載せないという気
 持ちもして分かります。表現の自由で保障
 されているため載せてはいけ~~ない~~とは言え
 ませんが、私は、本人の許可なしでは載せる
 べきではないと思います。

例えば、芸能人が交際しているような行動
 をとっているのと週刊誌などで取り上げられ
 ることも同じような事だと思えます。実際に
 交際していることも、その人とどんな関係か
 も分からないのに影^陰で写真をとり、雑誌に取
 り上げるのはどうなのかなと思います。仮に
 交際していたとしても、その芸能人も人間で
 あり、恋もすると思えます。私達のような
 雑誌を見る側からしてみれば情報^が聞^けて~~嬉~~喜^し
 い気持ちもあります。ですが、なにが本当な
 のか分からないので、載せるべきではないと
 思います。また、載せるのであれば、本人の
 許可が必要であり、許可がある上で誰もが楽
 しく見ることが出来ると思えます。

資料 2

1-11「公共」 作文評価シート【A】

No. 23

コメント	評価
<p>例も用いて、自分の意見をかいているのがいいと思います。また、最後に、どう改善したか、かいていいるのがよかったです。</p>	<p>A</p>
<p>わかりやすく、自分の意見が言えていてよかった。例も書いていて、内容がわかりやすかった。</p>	<p>A</p>
<p>例をあげるとも理解しやすい文になっていいと思います。</p>	<p>A</p>
<p>最初で「つの文に同じ言葉が2回入っているのが違和感」です。例が具体的にとてもわかりやすかったです。また「解決策」があるのがいいですね。</p>	<p>B</p>

【評価】 A：たいへんよく書けていると思う B：よく書けていると思う

C：まあ普通によく書けていると思う D：あまりよく書けていないと思う

1-11 「公共」 作文評価シート【B】

11番, 氏名

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目
No.	11	12	17	10	
評価	B	A	C	B	

【読後の感想】

ほぼ、下「いた」の人が B さんに記事にしているか聞くという考えにたどりついていたが、4枚目の人は記事にするかしないかの2択だけでなく、記事は作成するか、AさんとBさんの両意見を踏まえて作成すると書かれています。なるほどなと思いました。

どちらにも権利が保障されているので、お互いが相手のことを思いやることか、必要だとわかりました。

権利や自由の範囲を定めるのではなく、グリーンの部分を思いやりというものでうめられたら今回のような事は起きなかったのかなと思いました。

資料 4

今日の授業を通して人の気持ちを考えることがとても大切だと思いました。教科書にのっている話でも、女子相撲の新聞でも記事を書く人が相手の気持ちを少しでも考えていければ、どちらにも嫌な気持ちにたつることはありません。でも自由権で表現の自由がある限り、記事を書かずにとも言えません。記事を書く人も書かれる人も別に悪いことではないからこそ、権利というものは扱うことが難しいことだと感じました。

20 × 10

冤罪で逮捕された人や被害者の方が忘れられる権利について声をあげることには理解できているが、単に自分の行いで逮捕された人がそのことで声をあげるのは、正直意味が分からないと思った。ある程度の自由が保障された社会で生きていけるのに法も守れず、してはいけないことをした人が、それ相当の理由で公表された名前を、忘れてくれというのは自分勝手だと感じる。逆に、被害者の方々のその権利についてはより徹底して議論すべきだと考える。

20 × 10